

【現代法学部】2020年度卒業時アンケート

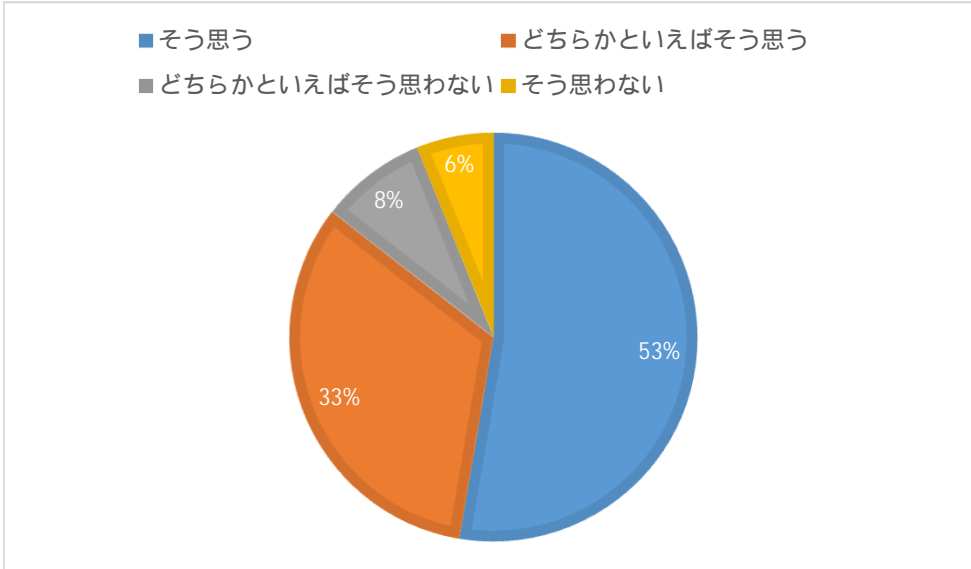
調査対象：2020年9月卒業生 11名、2020年度3月卒業生 285名

調査期間：2020年9月1日～9月15日、2021年3月2日～3月23日

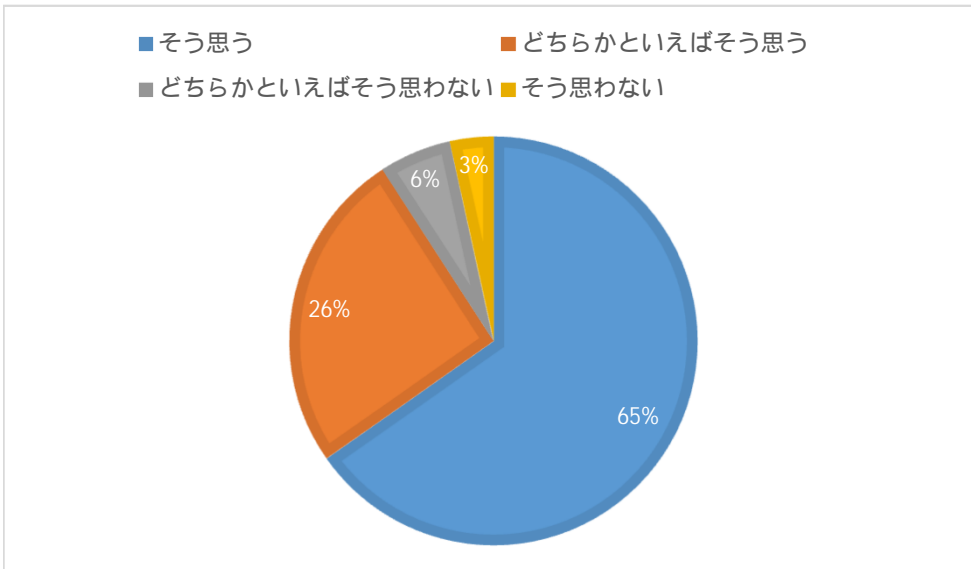
回答数：262件

回答率：88.5%

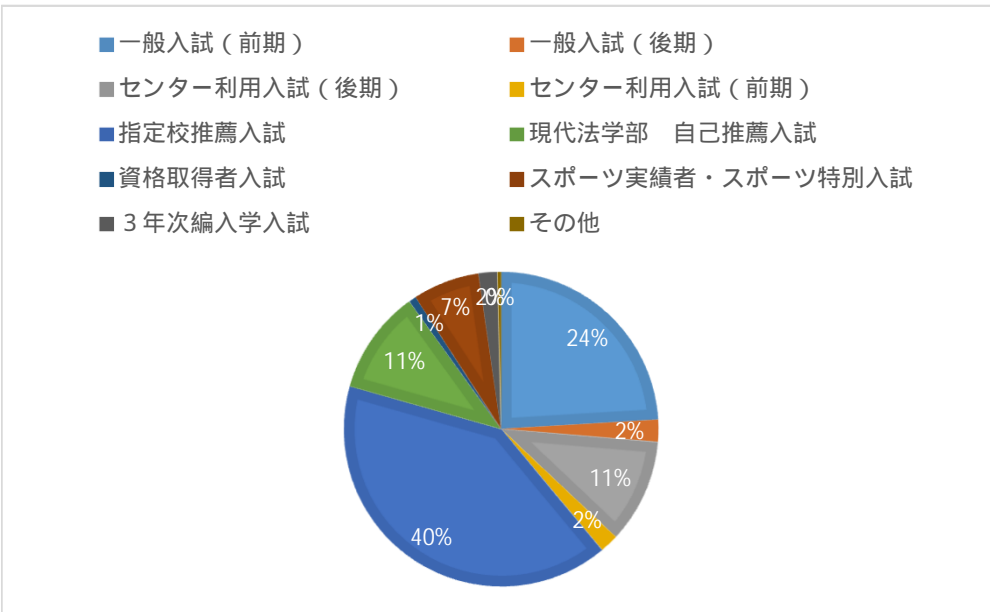
Q1.東京経済大学は入学を希望していた大学でしたか？



Q2.現代法学部は希望していた学部でしたか？

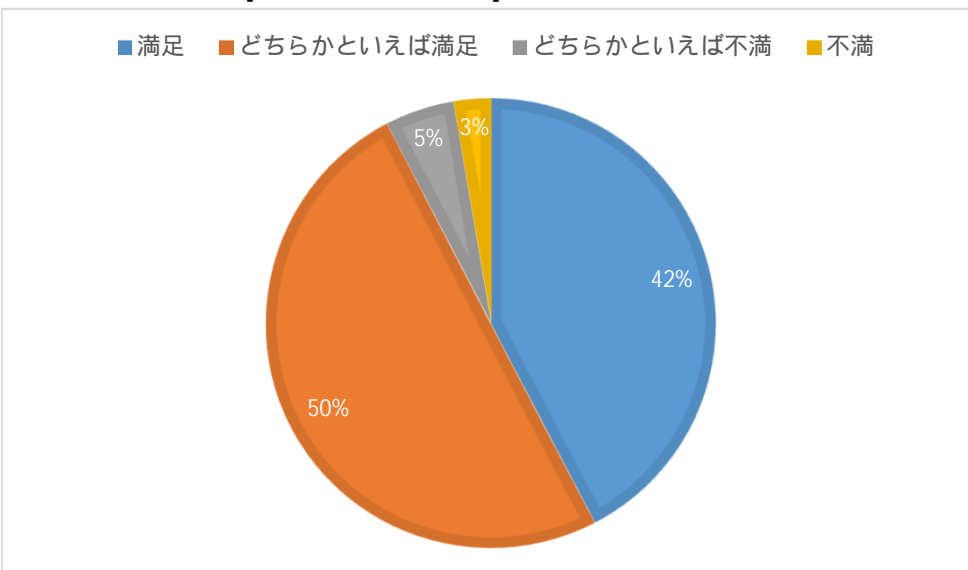


Q3.あなたが入学を決めた際の入試種別を教えてください。

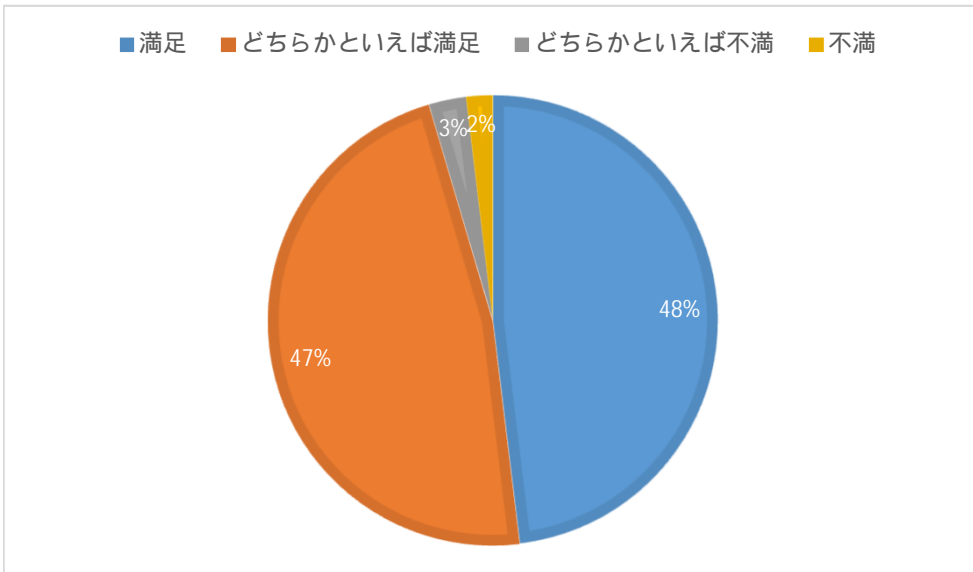


Q4.入学後の総合的な満足度をお答えください。

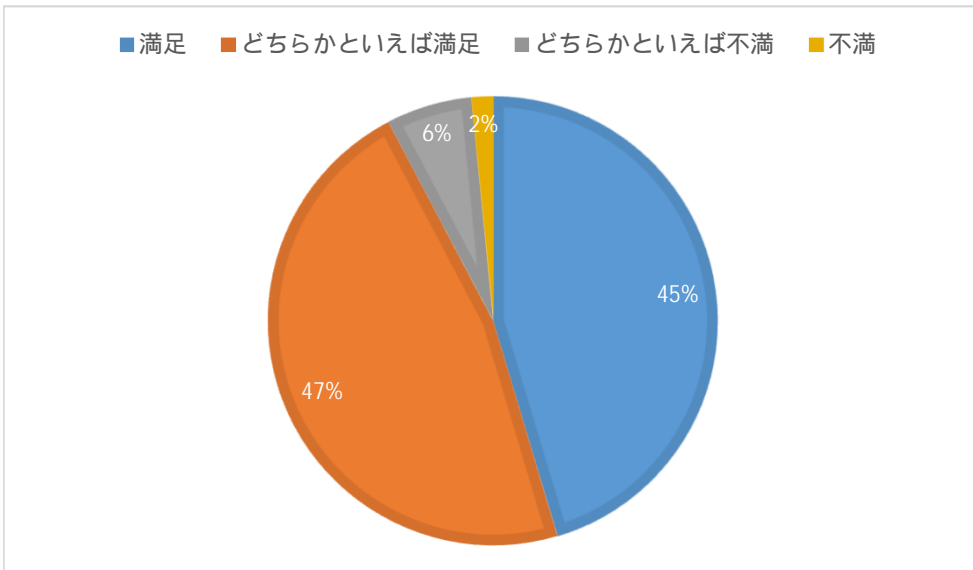
学部の専門分野[法律、政治・行政]に係る教育



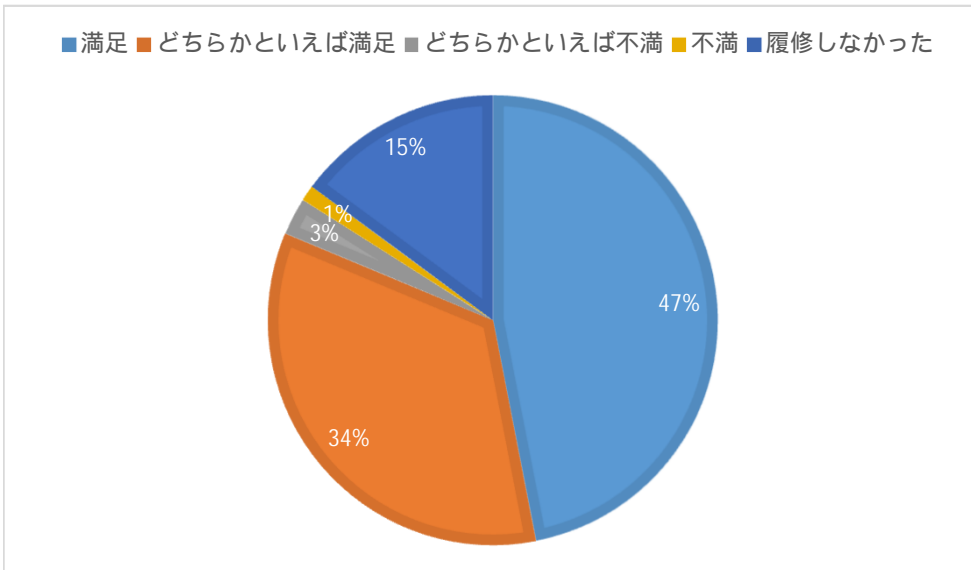
総合教育科目に係る教育



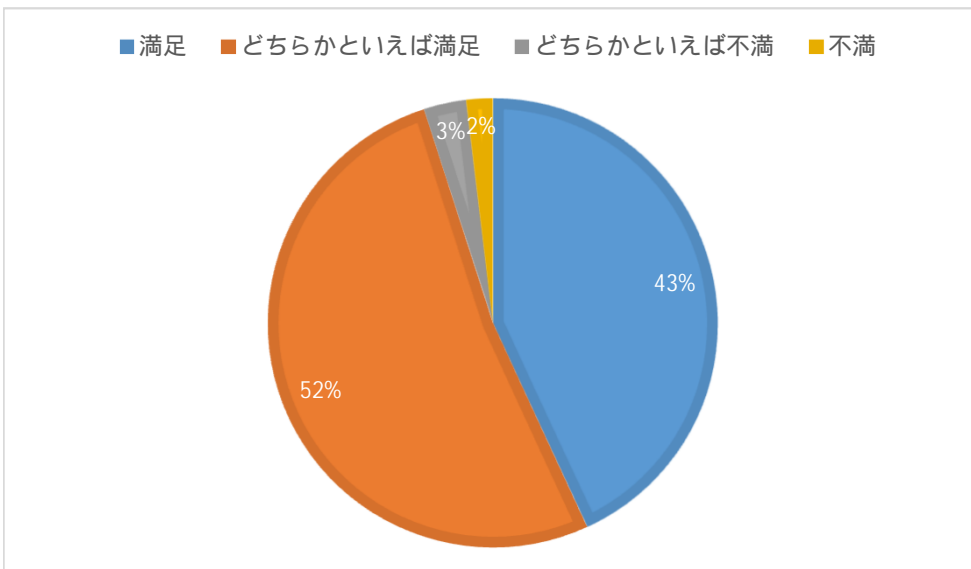
「演習以外の演習系科目（大学入門、社会・法学入門、基礎演習 ・ ）」



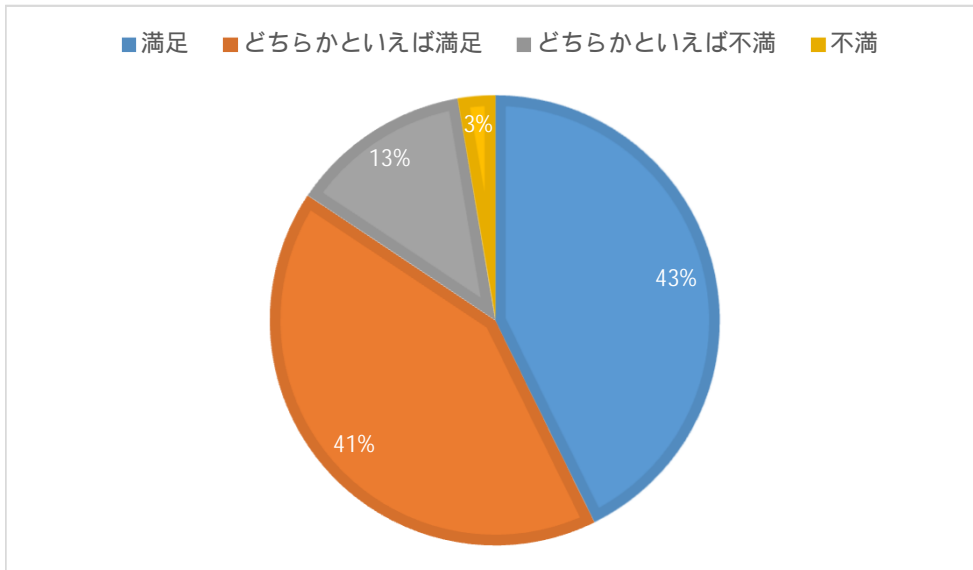
## 演習



## カリキュラム全般



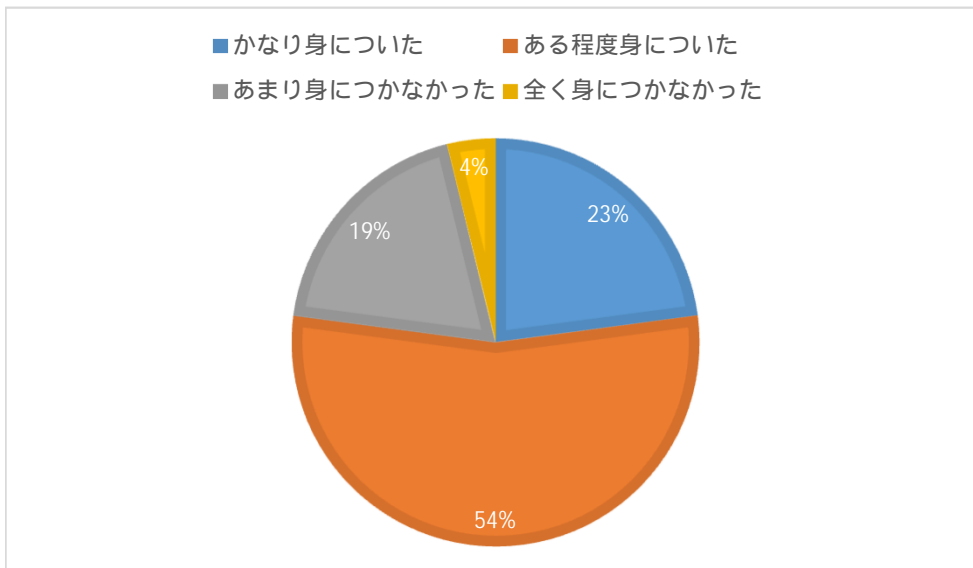
## 就職活動支援



Q6.次にあげる能力について、大学入学時と比べてどの程度身についたと思いますか？

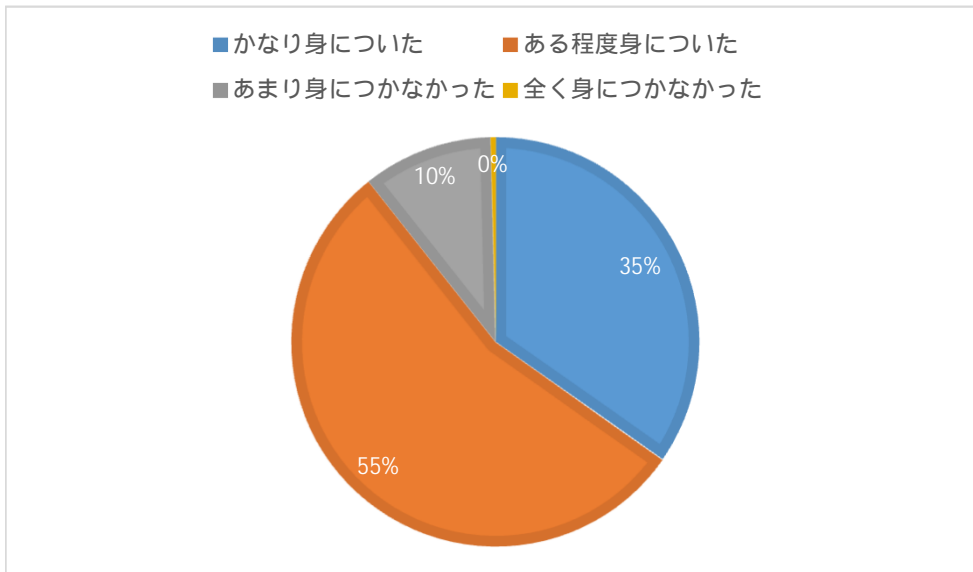
幅広い教養：

多様な文化、歴史および自然に関する幅広い教養と外国語を身に付けて、  
持続可能な地球社会の形成に主体的に関与できる能力



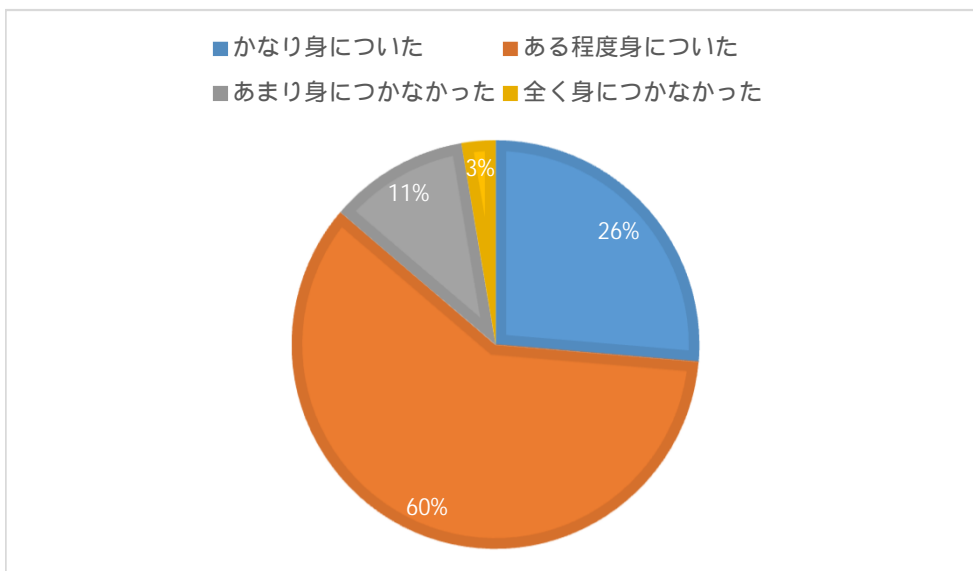
専門知識：

現実の社会問題に触れながら、法と政策に関する専門知識を適切に習得し、社会を多角的に考えることができる能力

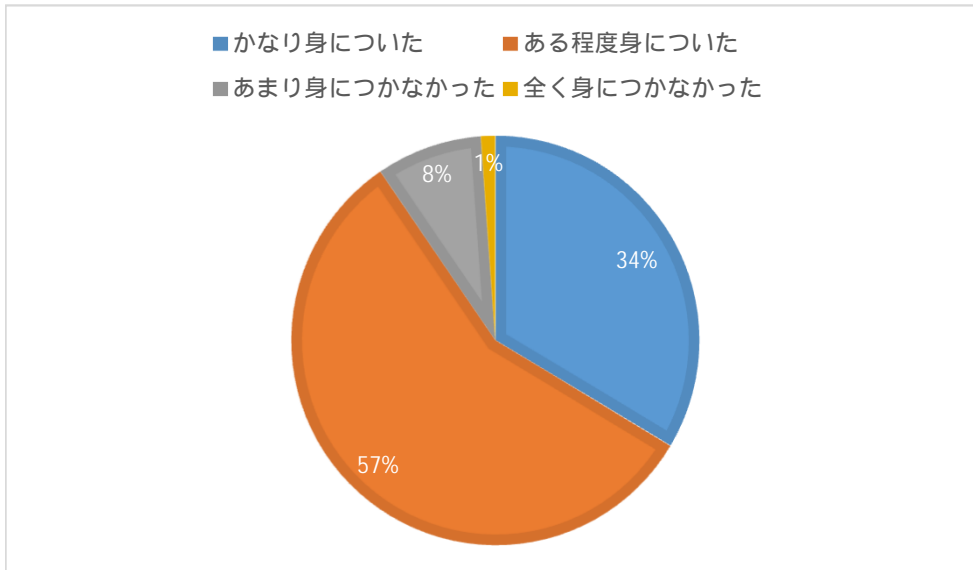


専門知識の活用力：

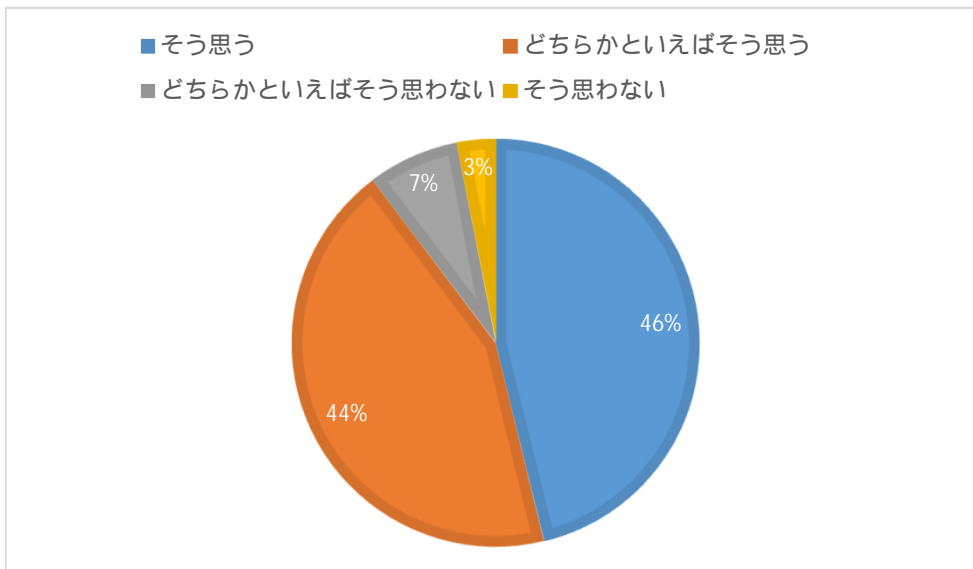
法と政策に関する専門知識と思考方法を活かし、社会における諸問題を発見し、課題の本質を考察して解決に導くことができる実践的能力



総合的な判断力と行動力：  
問題解決に必須の論理的思考とコミュニケーション力に裏付けられた  
総合的な判断力と行動力



Q7.入学前と比較して、「東京経済大学はよい大学だ」という思いは強まりましたか？



## 【分析】

現代法学部は、2020年9月1日から9月15日、2021年3月2日から23日にかけて、2020年度現代法学部卒業生に卒業時アンケートを実施した。総回答数は、262件であった（卒業生全体に占める割合は、88.5%である）。本アンケートの主たる目的は、卒業時における学生の「満足度」を図るとともに、4年間の学習での「達成度」を可視化することである。後者の「達成度」について、現代法学部のディプロマ・ポリシーに準じたかたちで、それぞれアンケート調査を行っている。以下では、総合的な「満足度」について検討した上で、ついで「達成度」について分析を試みる。

総合的な「満足度」については、学部の専門分野〔法律、政治・行政〕にかかる教育、総合教育科目にかかる教育、演習、カリキュラム全般および就職活動支援の5項目に細分化して、調査を行った。各調査項目につき、「満足」と「どちらかといえば満足」を合計すると、92.4%、95.4%、81.3%、95.0%および84.4%となり、演習および就職活動支援を除き、90%を上回る満足度が得られていることが示された。このうち、満足度90%を下回った演習については、履修しなかったとの回答を除くと、「満足度」は95.5%となり、演習を履修した学生については、概ね満足が得られているとよいと思われる。また、同じく90%を下回った就職活動支援についても、約5ポイント下回ってはいるが、概ね満足は得られたとよいと思われる。に関する自由記載欄では、概ね好意的な意見が多い。他方で、公務員志望者に対する支援に対して、不満を示す意見もあり、公務員志望者に対する支援について、今後の検討課題としたい。

4年間の学習での「達成度」については、現代法学部のディプロマ・ポリシーに準じて、幅広い教養（DP1）、専門知識（DP2）、専門知識の活用（DP3）および総合的な判断力と行動力（DP4）の4つの項目につき、アンケートを実施した。

幅広い教養（DP1）については、「かなり身についた」、「ある程度身についた」を合計すると、77.1%であった。卒業時における成長実感としては、概ね達成されているものと思われる。しかし、「かなり身についた」が22.9%であるのに対し、「ある程度身についた」が54.2%と大幅に上回っており、かつ、と比べると、「あまり身につかなかった」が19.1%となっていることから、同項目については改善の余地があることが伺われる。

専門知識（DP2）については、「かなり身についた」、「ある程度身についた」を合計すると、89.3%であり、高い成長実感があったことが示される。もっとも、と同様に、「ある程度身についた」割合が、54.6%とかなりの比重を占めていることを鑑みると、改善の余地があると思われる。

専門知識の活用（DP3）については、「かなり身についた」、「ある程度身についた」を合計すると、86.3%であり、高い成長実感があったことが示された。もっとも、と同様に、「ある程度身についた」割合が、59.9%とかなりの比重を占めていることから、改善の余地があると思われる。

総合的な判断力と行動力（DP4）については、「かなり身についた」、「ある程度身につ



いた」を合計すると、90.5%であり、高い成長実感があったことが示された。もっとも、  
～と同様に、「ある程度身についた」割合が、56.9%とかなりの比重を占めていることから、改善の余地があると思われる。

以上の結果を総合的にみるならば、卒業時アンケート回答者は、総じて高い満足度を得ており、また、4年間の学習での達成度についても、比較的高い成長実感をもっていたことが示されていることから、現代法学部のディプロマ・ポリシーは、所々改善の余地はあるものの、その目的をかなり高い程度で達成したものと評価することができる。

以上